再発見　running handling‘try’game

ラグビー創世期はフットボールが盛んに行われていた時代です。
町と町との戦われたフットボールは、2〜3 マイルはなれた相手のキャプテンの家へボールを蹴りこんだ方が勝ちという具合で、勝敗はその時に話し合いで決められていました。要するに目標物（地）にボールを蹴りこんだ方が勝ちと言う事です。

1823 年ラグビースクールでエリス少年がフットボールでボールを持って走るという出来事が契機に running handling game ラグビーが徐々に普及していきました。

ボールを持って走るプレーが認められるようになって勝敗を決める方法に変化が見られるようになりました。‘THE HISTORY OF THE LAWS OF THE RUGBY FOOTBALL’からその変遷をたどってみましょう。

競技規則が大整理された 1866 年のラグビースクールで行われているフットボールではトライは現在と違って‘run in’でした。ボールを持って相手のゴールラインを越えたら「ラン・イン」と叫びます。そしてトライした側がゴールキック‘try at goal’,‘have a try at goal’ゴールキックをやってみなさいとなり、2 ゴールを得た方が勝ちとなりました。

少し年を経てプレーヤーがボールを持って走りこむ「ライン・イン」に加えて、相手ゴールラインを越えて転がっているボールを味方プレーヤーが押えたらボールがデッドになり、この場合もゴールキックが行われるようになりました。
タッチダウンの始まりです。

当時のグラウンドの形状について明確な記述はありませんがゴールについては次のように細かい記録があります。勝敗にかかわる重大事であったことがわかります。

There was no mention of any dimensions, except for goal posts, which should “exceed 11ft. in height and placed 18ft. 6ins. A past, with a cross bar 10ft. from the ground.”

ゴールポストそのものの高さは決められていませんが天まで届く高さと言う事でしょう。

1874 年　LawⅡ TRY に次のようにあります。

1874. The R.U. had “A side having touched the ball down in their opponents' goal, shall ‘try at goal’ by a place kick or a ‘punt out’.”

‘try’という言葉が具象化されました。

そして勝敗に関しては以前のように 2 ゴール得た側が勝ちではなくゴール数の多い側が勝ちと拡大しました。

1875 年にはゴール数が双方同じだったらトライ数が多い側が勝ちで、ゴール数もトライ数も同じだったら引き分けとなりました。

ゴール数で勝敗を決めるには「一定時間の間に」ということが前提になります。試合時間については Law として正式に試合時間が記述されているのは 1926 年にことになりますが、1905 年に次のような記述があります。

There was no mention in the Laws as to how long a game was to last until 1926 though in 1905 the Rugby Union laid down for its County Championship : “All Championship matches at least 35 minutes, and In the final match 40 minutes, each way, shall fet played, if In the opinion of the referee it is possible to do so.”

チャンピオンシップ・マッチ（トーナメントゲーム）は前後半 35 分、決勝は前後半 40 分。

一般的には試合時間は 35 分を標準に話し合いで決められていました。前後半同じくすることは公平の原則に従い確実に行われました。

1877 年、得点はトライによりゴールだけと改めて記述されていることは、当時いろいろな得点によって勝敗が決められていたことがわかります。

1886 年、ゴールではなく得点で消波を決めることが本決まりになりました。
得点の内訳はゴールは 3 点、トライは 1 点と決められました。

トライが得点になったことはラグビーが handling game として完全独立した一歩として画期的なことです。
ゴールキックの権利獲得条件であったトライが得点条件になったことは handling game の必然性以外の何物でもありません。トライが得点の対象目標になったことは大変な改革です。

1889 年になるとゴールが 3 点、ペナルティゴールが 2 点、トライが 1 点となります。ペナルティキックによるゴールが得点として加算されるようになったことは、反則に厳しい大変革です。

1891 年、試合の得点によって勝敗を決めると改めて記述されていることは全て解決したことを示しています。

ラグビーはトライの取り合う方式が出来上がりました。以来今日まで(*)各々の点数にも変遷がありました。時代に行ってラグビー関係者や愛好家達の気持が含まれています。
ペナルティゴールによる点数で勝敗が決まるのはおかしいという議論もなされました。
(*)ドロップゴールも含めて

2010.07.19
西川　義行